

ごうたんえ しんらん たんじょういわ
降誕会—親鸞さまのご誕生祝う—

写真(右)三津田支坊お斎(中)長ノ木本坊お抹茶のお接待。希望者は草庵でいただくことができる。(左)西教寺賞の地デジ対応チューナーをゲットした松垣篤子さん。



した。賞品代もバカになりませんが、皆さんが色々と支えて下さっています(感謝)。



ゲーム大会でにぎわいました。特に、蔵本通支坊は、過去最高の四十名の子供が参加、大変な騒ぎになりました。



が無料でお接待されました。長ノ木本坊では、お聴聞の後、恒例のお抹茶のお接待、蔵本通支坊は、ビンゴ

五月二十一日は、親鸞さまのご誕生日(降誕会)です。三津田支坊は参詣者にお斎

白道会大会 本多静芳(東洋大学)先生
現代と『歎異抄』—流罪800年にあたり—

二〇〇七(平成十九)年は、親鸞さまが流罪になつて八百年の年でした。法然門下の僧侶四名が死罪、親鸞さまの師である法然聖人は土佐へ、親鸞さまは越後へ流されるという宗教弾圧が起こりました。これを承元の法難(一二〇七年)といいます。本多先生は、法座では、笑いあり涙ありのお話で、やさしい『歎異抄』のお話でしたが、公開講演会ではとても論理的実証的に、念仏弾圧事件の持つ歴史的社会的意味についてお話をいただきました。

先生によると、弾圧は、それまでの仏教(顕密体制仏教)と法然・親鸞の仏教が異質であつたために起きた事件だと、歴史学者の黒田俊雄・古田武彦の説を紹介しながらお話をいただきました。

顕密仏教とは、法然・親鸞さまが説かれた鎌倉新仏教以前の仏教八宗、つまり、奈良時代の南都六宗と平安時代の天台・真言のことで、これらはいずれも鎮魂・呪術的な密教を基盤としていました。それは、国家権力と癒着することで当時の正当仏



公開講演会の様子。満堂の参詣者。

教の地位を固めていましたが、世俗的な秩序を取り込んだ仏教として、平等の救いとはほど遠い、財力・縁故・性別などの社会的差別を取り込んだ仏教でした。それは古代宗教の神祇崇拜から、世俗権威の天皇崇拜までさま